

開催概要

アドバイザーによるセミナーや、グループ討議などによる参加者同士の交流会を実施。
日々の保育の参考となるポイントや具体的な事例紹介等を通して、具体的なイメージの醸成を支援した。

日時 令和5年2月18日(土) 13:00~15:00

開催方法 オンライン開催(Zoom使用)

対象

- 都内保育所等に勤務する保育者・補助関係者・法人担当者
- 都内保育所等に勤務予定の方
- 都内区市町村保育所管部署担当者

参加者 145名

当日プログラム

■ 子供主体の保育促進事業 事業概要説明

令和元年度からの流れと
今年度実施内容について

野村 直子氏
一般社団法人new education LittleTree 代表

■ アドバイザーによるセミナー アドバイザーの役割や取組について

野村 直子氏
一般社団法人new education LittleTree 代表

■ トークセッション

アドバイザーが感じた事・
活動エピソード

テーマ① 散歩時の自然体験について

テーマ② 保育の振り返りについて

■ ワークセッション 参加者によるワーク

アドバイザー



野村 直子 氏



久保田 修平 氏



■ アドバイザーによるセミナー

Point 1. 子供主体ってなんだろう？

- 「子供主体」という言葉が一人歩きをしている状況がある
- 「子供主体」とは「子供次第」ではなく、自由に好きなようにさせることではない

シンポジウムにおいて汐見先生が詳しく解説しているシンポジウム動画

▶ https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/koho/kodomo_syutai.html



Point 2. 子供の姿を真ん中に

- 保育の振り返りの重要性について
- 子供がどんな姿で遊んでいたか、どんなことを感じていたのか、子供を真ん中において考える
- 保育者たちが共有することで、子供の姿を多角的にとらえることができる

Point 3. 自然×子供

- 自然の中には多様なものが存在し、個々の子供たちの興味を満たす環境がある
- 自然体験の少ない子供たちを、自然環境に意図的に連れていく
- 自然の力を借りながら、子供の力を引き出す
- 自然について学ぶという保育の姿がよくあるが、自然について学ぶのではなく自然から学ぶ

Point 4. 個々の興味を満たす環境

- 子供たちがそれぞれ何に興味を持っているのか
- 「いい匂い」「臭い」「冷たい」自然環境の中で、子供たちは五感を使って遊ぶ
- 園内では目立たない子供が、外遊びではいきいきと輝き出す
- 一人でブロック遊びに没頭する子供が、外では自分の見つけたものを友達に共有する姿が現れる

Point 5. 気づいたこと

- 自然の中で何をすればよいかを聞くよりも、子供と一緒に楽しむ保育者のあり方
- 子供たちのどのような姿を見せるか、どのような言葉をかけるか
- 子供たちの質問を一緒に考える。
- 子供たちの質問から次の計画が生まれる

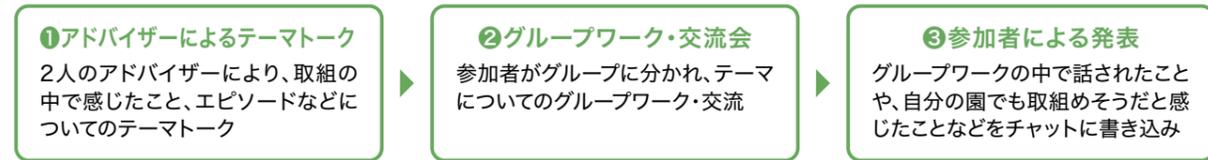
(まとめ) 6. 子供のつぶやきを聴き、子供の気づきに寄り添う保育

大事なのは子供たちと向き合う姿

教える一方通行の保育から、子供たちの力を信じ寄り添うこと

■トークセッション

トークセッションの流れ



テーマ① 散歩時の自然体験について

どんなお散歩をしていますか？ 自分の園で取組めそうなことはありますか？

①アドバイザーによるテーマトーク（都心部の保育園「ほっぺるランド渋谷」での事例を紹介）

- 出かけた公園の様子が最初と2度目で違っていた。
 - 最初は自分の背の高さよりも高く雑草が伸びていたので雑草を抜いたりして遊んだが、2度目は雑草が刈り取られていた。
 - どうなるかと思って見ていたら、刈り取られた草を集めて、別の遊びが始まった。
- ▶ 公園はいつも同じ環境ではない。季節で変わり自然環境は固定してないから面白い。
▶ 同じ公園に通ってみることも1つのポイント。

②グループワーク・交流会

③参加者による発表・チャットの書き込み

グループワーク後の発表では、園庭のない保育園でも様々な工夫をして遊びを作り出していることが感じられた。

チャットでの 回答例

- どんどこあそびの後の洋服についてだったり、普段している自然遊びのことを聞けました。
- 土手や川に近い園さんがいることを知りました。自分の園も周辺の環境を生かした散歩ができたらと感じました。
- 園庭のない保育園が結構あるんだなと思いました。みなさん、とても工夫されており、参考になりました。
- 散歩先での遊び、雨の日の散歩について聞くことができました。
- 都内の園だと公園先で重なってしまう。

テーマ② 保育の振り返りについて（反省会ではなく振り返る）

実際に行うとしたらどんな課題がありますか？

①アドバイザーによるテーマトーク（セミナーの中でも紹介をした「保育の重要性」について）

- 反省会にしない。気持ちを緩やかに前向きにとらえる
- 今日の大変だったこと、困ったことよりも、楽しかったこと、次に何をしようかという話に
どんぐりから出てきた虫を、子供たちが何だろうと思い先生と一緒に探求している時に、虫に詳しい先生がすぐに教えて
▶ しまうことがあった。子供たちに何を体験させたいかは保育者それぞれの視点が違う。振り返りで視点を共有することで
保育の方向性も揃う。

②グループワーク・交流会

③参加者による発表・チャットの書き込み

- グループワーク後の発表では、日々の業務に追われ、振り返りをする時間を作ることができないという意見が多く、課題となっていることがわかった。
- メッセージや動画を使い共有している園があった。

チャットでの 回答例

- 振り返り時間をなかなか取れない園が多い。
- 振り返りという観点が足りなかったため、反省だけでなく、振り返りをする時間を積極的にもちたいと思いました。
- 振り返りの時間は取りたいが休憩や他の会議との兼ね合いが難しい。
- メッセージでその日の振り返りを全体で共有出来ているとお聞きして、新しいアイデアを知ることが出来ました。

■質疑応答

Q1 幼少期の体験の重要性について

園庭の木に生えたキノコやコケを調べたいと思った時に、子供に手渡す適当な図鑑がなくて困りました。ネットで調べると結局大人が教える形になってしまい、図鑑などでは見つけられない場合がある。

A 人に聞いて回るということが僕は好きです。キノコ好きがいるかもしれないし、キノコは詳しくないけど虫好きがいるかもしれない。その人と一緒に探してみるっていうのも面白い。
私は必ずしも正解を求めなくてもいいと思っていて、例えばその珍しい苔のほかにもいろんな苔を見つけて絵に描いて、図鑑を作っちゃうとかね。自然の取組の中で自作の図鑑を作るという例は多く、以前に山の中で大きなシダを見つけ、王冠みたいに見えるから王冠シダという名前をつけ、その後小学生になって調べたら、本当はオニシダという名前だったことがわかった。そういう興味につながっていくので、幼少期にはまずは体験が大事です。

Q1 保育者によるきっかけの作り方、声かけの仕方について

園庭がない保育園なので毎日散歩に出かけます。遊具のない公園も行きますが、自然を見るというよりすぐに全員の鬼ごっこを始めるのが日常です。どんぐりや紅葉の体験もできるはずなのに関心を示さない子供が多い。結局どこに行っても鬼ごっこ。これは自然体験でしょうか。

A 以前に同じ話題になったことがありました。それは遊びこんでいない時ほど、子供たちが鬼ごっこするんです。興味があるものが見つからないから、鬼ごっこをして楽しもうという工夫じゃないかと思います。逆を返せば、自然物の方に広がるような仕掛けとか、声かけが必要です。今回の保育同行でもありましたが、季節を感じるという狙いを持って出かけているのに、先生たちの声かけに、季節の「き」のイメージも出てこない。狙いに即した外遊びになっているのかと思う時があります。

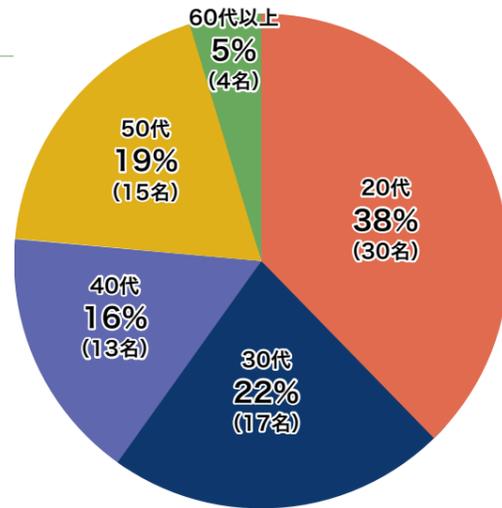
■ワークセッション

最後にセミナー・交流会に参加し思ったこと、感じことを振り返り、参加者が明日からできそうなスモールステップ（目標設定）考え発表した。

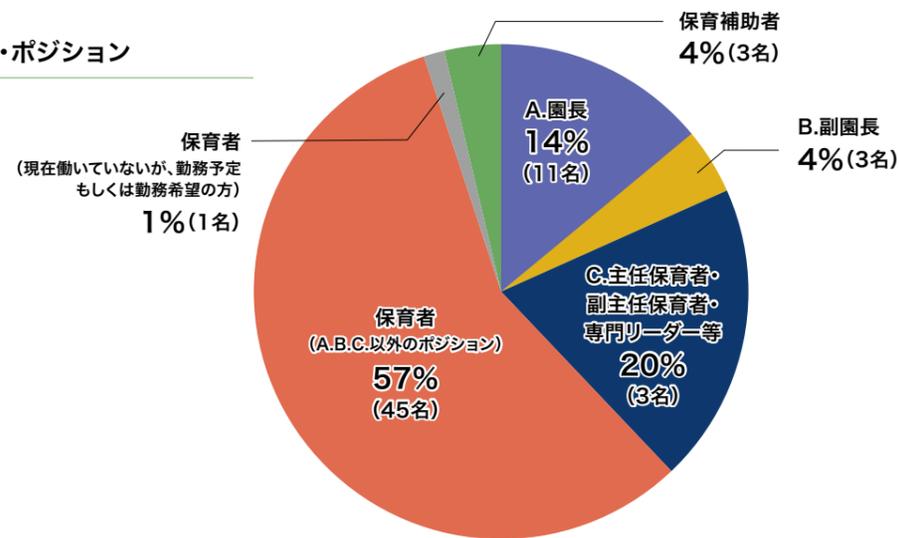


参加者アンケート

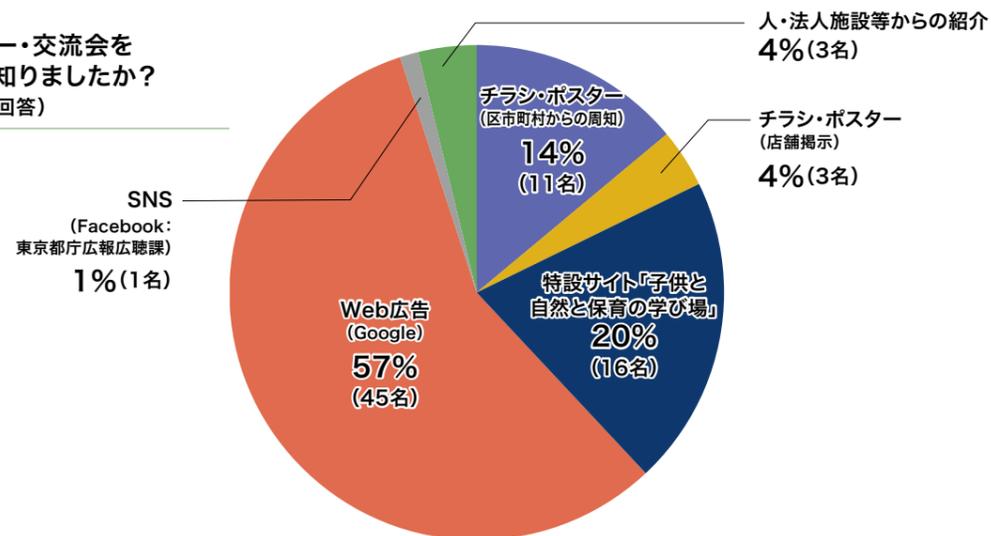
1. 年齢



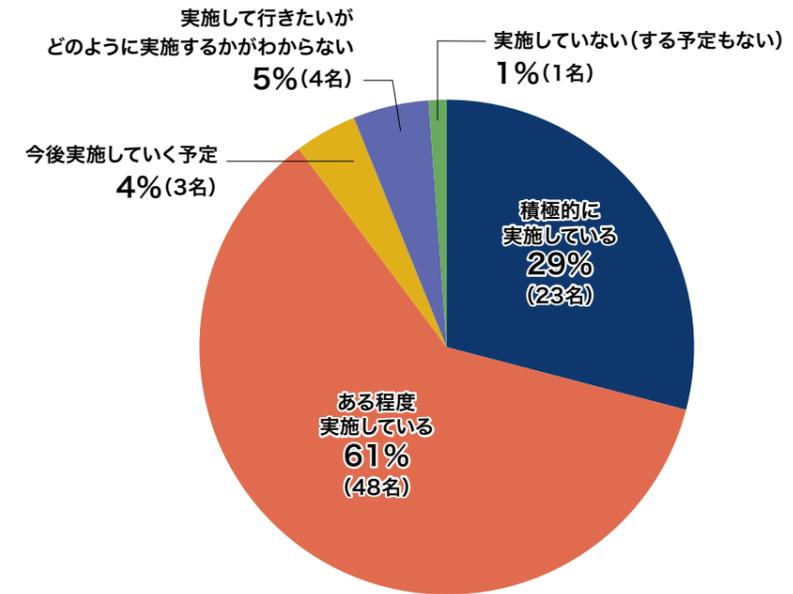
2. 職業・ポジション



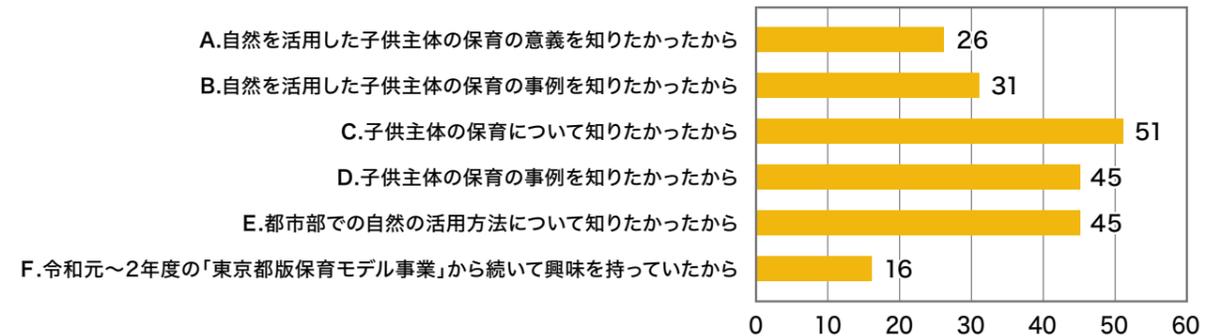
3. セミナー・交流会をどこで知りましたか? (※複数回答)



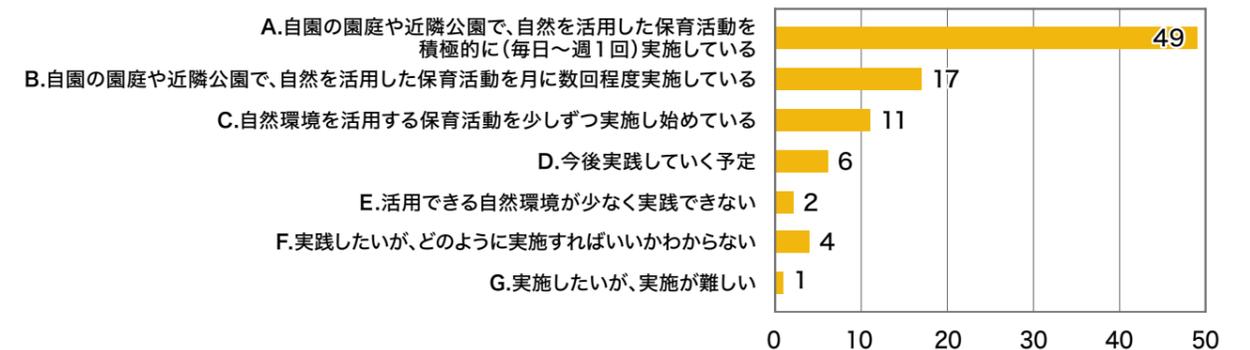
4. あなたの園では、子供主体の保育を意識した保育活動を実施していますか。



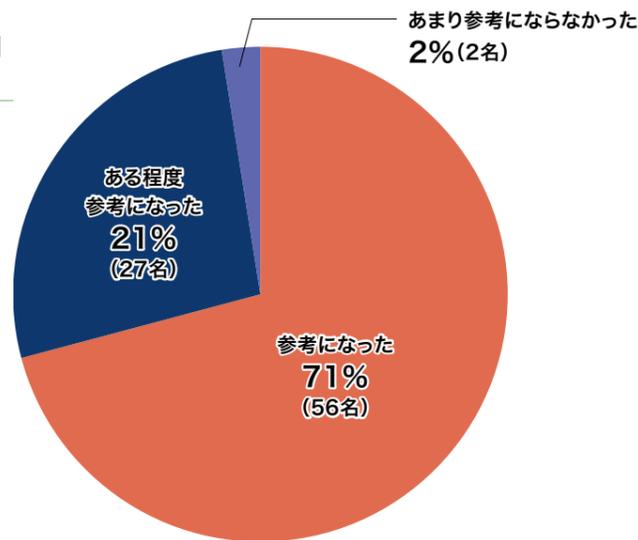
5. 参加したきっかけ、目的をお聞かせください。(※複数回答)



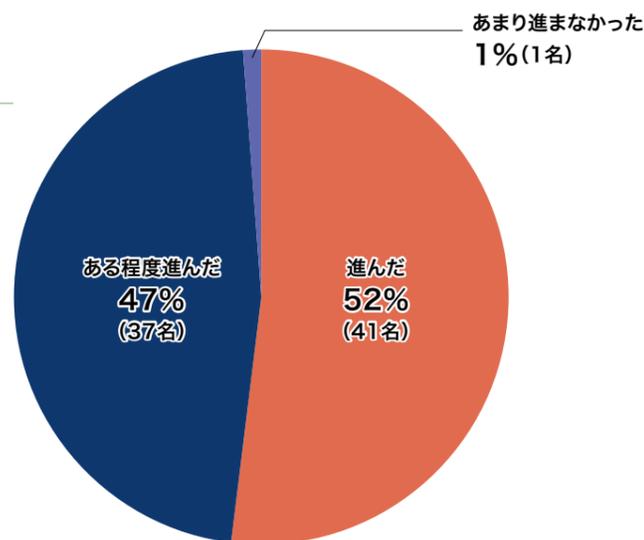
6. 自然を活用する保育について、あなたの園での取組状況(※複数回答可)



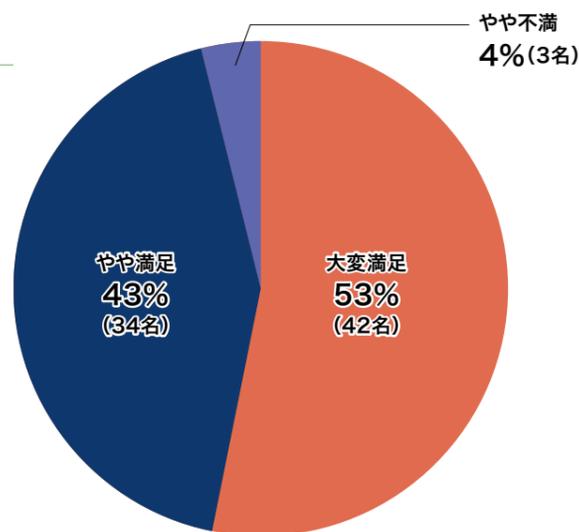
7. 自然を活用した保育の事例は参考になりましたか？



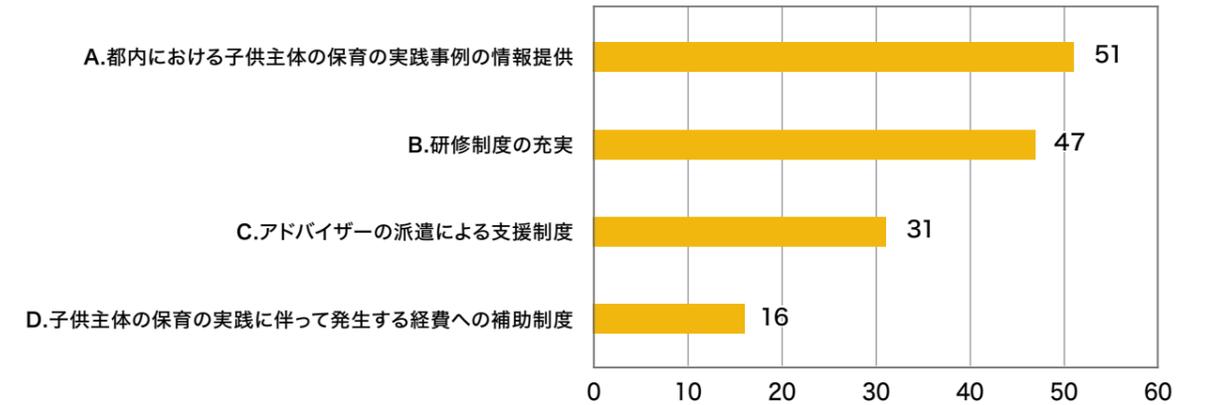
8. 子供主体の保育について理解が進みましたか？



9. セミナー・交流会の満足度



10. 子供主体の保育を進めていく上で、東京都やその他行政機関への期待や要望等(※複数回答可)



参加者アンケート〈自由記述〉 ※「大変満足」「やや満足」と回答した参加者の意見

- 外遊びで自然と触れ合うことで子供たちの主体性を見つけられるというヒントを知ることができた。
- ほかの園の散歩状況や、振り返りの際に大切にしていること等を、園の先生から直接聞くことができ大変参考になった。
- 講師のエピソードから、自然体験の大切さ、面白さに気づくことができた。また「こういう保育をしなきゃ」「ちゃんと遊ばせなきゃ」とプレッシャーを抱えて保育するのではなく、大人も自然体で今ある自然を楽しめば、子供が面白いと興味をもっていることにも気づけるんじゃないかと思いました。
- いろいろな工夫をしながら、自然を活用した保育を実践されている園が増えていることに希望を感じました。
- 自然あそびの重要性や子供の主体性が全て子供次第では無いということを聞き勉強になりました。

参加者アンケート〈その他の意見〉

- セミナー・交流会得られたヒントを、園に戻り共有する。
- あらためて子供主体の保育について考えるきっかけになった。
- 全体が穏やかな雰囲気が進められたので、緊張することなく参加することができた。
- 散歩に対して新たな視点を得ることが出来ました。
- 職員にも参加させ、子供主体の保育をやっていきたいです。
- 公園選び=固定遊具と言う考え方から、違った散歩の方法を得られました。
- 保育者同士、保育観の違いをすり合わせる為にも保育の振り返り、対話は大切だと感じました。
- 子供ではなく自分側が変わってみようという視点が生まれました。
- 子供主体と一言で表してもとても難しく、どう工夫していったら良いのか悩む日々でしたが、ヒントを頂け今後の保育にいかしていきたいです。